

研究から学術、そして環境コミュニケーションの仕事へ。理系の知識を活かした研究以外の道もある。

東 和美 (株)資生堂 環境企画部

仕事の内容と醍醐味

2009年12月に「学術室(社外の医療機関や研究者との窓口部門)」から「環境企画部(社内の環境活動および社内外への環境コミュニケーション推進部門)」に異動しました。現在の部署には理系・文系、様々な経歴・職歴を持った人が集まっています。「環境」に関する仕事は、それだけ理系の知識も文系の能力も必要な部署、といえます。特に私が担当しているのは「環境コミュニケーション」。社内に対しては、いかに環境活動推進の啓発に結びつける情報発信をするか、また社外に対してはいかに当社の環境活動をアピールできるか、を考えながら日々業務をしています。その中で「人に伝える」ことの難しさを実感しています。情報化社会の中で、情報は一方的に出しただけでは届かず、こちらが発信する情報が相手にとって「必要だ」と感じていただく工夫が必要です。難しい情報であれば噛み砕いて誰もが理解できる内容として発信する、同じ内容でも心に響く(興味を持ってもらえる)情報発信をする、など…。しかし、このように課題を克服するためにあれこれ考え、その解決策を探るのは、研究と同じで何度も壁にぶち当たりながらも、とても楽しい作業だと思います。最近になって「研究」と「コミュニケーション」という、一見全く異なる作業にも共通点を見出している私です。

仕事と家庭のバランスについて

大変ありがたいことに、結婚して3人の娘に恵まれました。父母、義父母の助けが借りられない状況の中で、仕事と家庭のバランスについてはこれまでかなり悩んできました。周りの理解・協力と会社制度のおかげで、何とかこれまでやってこられた、というのが実情です。今も正直、悩みは続いているのですが、「時間をいかにして効率よく使うか?」という意識は絶えず持っています。例えば「5分あれば○○ができる」という感覚を持って仕事をすると、通勤時間を有効に使う、朝早起きして(21時半就寝、4時前後起床)自分の時間を作る、などです。家族(特に子供)に対しては、いつも「こんないい加減な対応で良いのだろうか?」と不安に思っているかなりのダメ母です。でもいつか、子供たちも成長し、こんなダメ母の気持ちも理解してくれるだろう、と楽観的な気持ちも持っています。

私の進路決定のきっかけ

小さなころから動物が大好きで、中学に入ったころから「獣医師」になりたいと思っていました。中学のころは「理科」はあまり得意ではなかったのですが、高校の生物の授業で「遺伝子の不思議」に触れて、「生物」について興味を持ち、最終的に獣医学部に進学することを決めました。獣医学部では、生化学・生理学・薬理学・微生物学といった「基礎研究」から、内科学・外科学・繁殖学(おまけに牛当番・豚当番など!)といった「臨床」まで幅広い内容の講義・実習を受け、「自分には何が合うのか?」をじっくり考えられました。その中で私は「基礎研究」にとっても興味を持ち、博士課程に進学するか就職するかで迷いましたが、こんな私に内定を出してくれた会社に感激し、お世話になることにしました。

進路選択についてのメッセージ

理系か文系かという選択の際には、その時の得意分野(科目)で決める必要はないと思います。仕事をしていく上で、理系でも文章がうまく書けたり、表現できたりすることはとても大切ですし、文系でも論理的な思考ができるのはとても重要なことだと思います。何にでも積極的に関わっていくことが、自分の人生にプラスになると思います。自分は将来何になりたいか?まだそれが見えなければ、何に興味があるか?何が好きか?それを大切にして前に進んでいただきたいです。私は基礎研究が好きで企業の研究所に入りましたが、その後の異動により、現在の仕事に就きました。最初は抵抗もありましたが、徐々にその面白さに惹かれていきました。理系出身者の活躍場所は、「研究」はもちろんですが、それ以外にもたくさんあると思います。自分の可能性を広げていっていただけたら…と思います(と、えらそうに言っている私本人は、かなり行りに任せた人生を送ってきていますが…笑)。

<東 和美(あずまかずみ)プロフィール>

- 1984年 愛知教育大学附属高等学校卒業、北海道大学 理II系入学
- 1990年 北海道大学 獣医学部卒業(獣医師免許取得)、資生堂入社(リサーチセンター 製品研究所 第一皮膚生理研究室配属)
- 1993年 結婚、主人転勤のため、別居
- 1995年 第一子出産、主人と同居
- 1997年 リサーチセンターから学術部(現 学術室)へ異動
- 1999年 第二子出産
- 2003年 第三子出産
- 2009年 学術室から環境企画部へ異動、現在に至る

